

令和5年度自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月29日
下関短期大学付属第一幼稚園

1. 本園の教育目標

教師や友達との信頼関係の中で、安定感をもって園生活を送りながら自分で考えて行動し、主体的に活動する子どもを育てる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

一人一人の子どもの可能性を十分伸ばしていくことを目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	自己目標を設定し内容の充実を図る。	B	教師はそれぞれの目標に向けて、まわりの教員への相談・アドバイスを受けながら、園児の援助指導に取り組んだ。その結果、年齢に応じた指導を、可能な範囲において実践することができた。
2	園児募集に力点を置いた行事の在り方を考える。	C	昨年同様に、体験保育など、いろいろな企画を実践してみた。その結果、参加者等は昨年よりは増加したようには感じるが、それが園児数の増加には、直接繋がらなかったように思う。
3	教育の質の向上に向けて園内研修の充実を図る。	B	今年度は、教員に年間一回の外部研修会に参加することを要請した。それについては、オンラインも含めて達成された。そのことに教員自身の満足度は向上したように感じる。今後は、それを教員全体への研修に繋げていく必要が求められる。

評価(A= 十分に成果があった B= 成果があった C= 少し成果があった D= 成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	昨年よりは、教員全員が、それぞれの目標の実現に向けて努力してくれたと思う。その結果が、園児達への教育効果を高めたように感じる。 園児数については、決して満足のいく結果ではないが、途中入園の保護者との面談では、本園について好印象を語られることが多かった。

評価(A= 十分に成果があった B= 成果があった C= 少し成果があった D= 成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	幼児の主体的な活動の尊重	園児達の個人差を考えながら、教員それぞれが寄り添い合えるような環境設定を行いながら、教育・保育を実践していく。
2	園児募集に力点を置いた活動の在り方	対外的な募集活動は、当然のことながら実践するが、園児募集につながる行事を考えるだけでなく、在園児への教育・保育や保護者へのサービスの見直しを考えて、魅力ある園を作っていく。
3	特別な配慮を必要とする幼児の指導	園生活を実践していく中で、特別な配慮を必要とする園児への教育は、教員一人及び園全体で行うだけでなく、外部施設との連携を密に取り、定期的に情報交換などを行いながら実践していくことが必要である。

6. 学校関係者評価委員会委員の評価

(1) 教員の自己評価について

- 総合的に評価が良いので良かった。
- 園児募集については、こども園なのに遅くまで預かってもらう子どもが少なく、早く迎えに行かないといけない雰囲気があるのが、口コミで広がっているのがマイナスになっているのではないかという意見があった。
- 教員の自己目標に対する取り組みの成果がみられ、教員集団の団結力を感じる。
- 園児募集に対するいろいろな企画が実践されている。市内全体での園児数が減少する中では、増加させるのは難しく、現状維持を確保することが大事ではあるまいか。
- 年間1回の外部研修への参加実績はすばらしいが、外部講師による園内研修を実施する必要があると感じる。

(2) 保護者アンケートについて

- 総合的に評価が良いので良かった。
- 今後もアンケートをとって、保護者の意見を聞くことは続けて欲しい。
- すべての項目において、高い肯定的評価を得ている。
- 保護者からの相談に対する対応や、園での子どもの様子の保護者への連絡などが、適切・誠実に行われている。
- アンケートの回収率が、90%と昨年度(88%)に比べ度にアップしており評価できる結果。
- 自然災害など、防災に対する取り組みの評価が低いのが気になる。

7. まとめ

総合的な評価結果においても、昨年度よりは教員それぞれにおける、自己目標に対しての実践充実度などは、向上したように感じられる。

ただし、それが園児数の増加に直結というわけには行かなかったことは残念である。

しかし、このことが今後に向けての、教員達の課題として良い方向付けの指針となったと言える。

園周辺地域の高齢化・少子化は深刻である。具体的には、神田小学校の廃校。関西小学校や文洋中学校の廃校予定。桜山小学校の新入生数20名台。どれをとっても園にとっての好環境とは言えない。

そのような状態の中での園児募集は並大抵ではない。

今後、園の魅力を市民に知ってもらうためには、ホームページ等での発信、在園児・卒園児の保護者等を通じてのアピールに頼ることが最も必要とされている。

園児・教職員の安心安全を第一に考える幼稚園づくりを目標に掲げて、教職員一丸となって努力していくことが園児数の増加にも繋がると思われる。